

子どもの本だな 20

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

ペレのあたらしいふく

エルサ・ベスコフ さく・え おのぞら ゆりこ やく
(福音館書店)

ペレは自分の子羊を持っていました。よく世話をし羊は大きくなりましたが、ペレの服は小さくなりました。ある日ペレは羊の毛を刈り取りおばあさんの所へ持っていき、畑の草とりをするかわりに毛をきれいに漉いてもらいました。そしてもう一人のおばあさんの所に行き牛の番をするかわりに糸に紡いでもらいました。こうしていろいろな人に手助けしてもらい最後には仕立屋の家の仕事を引き受け服を仕立ててもらいました。

平塗の絵は北欧の暮らしぶりや自然をあらわし、羊の毛から服が出来上がっていく過程を楽しみながら、自分の力でやりとげる大きな満足を得ることが出来ます。読んでもらえば4. 5歳から楽しめます。(西村)

ゆかいなホームーくん

ロバート・マックロスキー 作 石井 桃子 訳(岩波書店)
ホームーは、おじさんの食堂で自動ドーナツ製造機を組み立てながら、留守番をしていました。

黒い大型自動車で行ってきた婦人にドーナツとコーヒーを注文されましたが、まだ粉の用意ができていませんでした。婦人は「一番おいしい分量を知っている」と、指輪や宝石つきの装身具を外すと大量の粉を混ぜ始めました。おいしいドーナツができたのですが、ストップボタンを押しても機械は止まりません。ショウ・ウィンドウ、カウンター、棚の上、いたるところドーナツが積み上げられました。大量のドーナツに頭を悩ましているところに、粉を混ぜてくれた婦人が腕輪がないと飛び込んできました。

腕輪の入ったドーナツに賞金をつけると、ドーナツはどんどん売れ、婦人の腕輪も無事に見つかりました。ペットのスカンクと強盗犯を捕まえるなど、おおらかでユーモラスなお話が六編、著者自身による挿絵とともに楽しめます。十歳くらいから。(竹内)

6月	7月	6月・7月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
11日	9日	塚森 地域内 10:30~10:50	沖代 地域内 11:00~11:20	福地(三反長) 地域内 14:30~14:50	米田 公会堂 15:00~15:20	竹広南 公民館 15:30~15:50
18日	16日	岩見構下 公民館 10:30~10:50	岩見構上 公会堂 11:00~11:20	原池団地 公民館 15:00~15:20	山田 掲示板前 15:30~15:50	原 太田東地区農村 交流センター 16:00~16:30
25日	23日	広坂 公民館 10:30~10:50	上太田 公民館 11:00~11:20		吉福 公民館 15:30~15:50	太子 ニュータウン 公民館 16:00~16:30

お知らせ

毎週土曜日に「おはなしの時間」を開いています。
4歳~2年生 11:00~
3年生~中3 11:30~
6月のおはなしは
あかずきん
空飛ぶじゅうたん
ラプンツェル
などを予定しています。
詳しくはプログラムをご覧ください。

『ラオス 山の村に図書館ができた』

安井 清子 著

福音館書店 317頁 2015年1月刊 1,500円 (請求記号) 016

お話を伝える仕事が出来ると、人形劇グループに就職した著者は、ラオス内戦でタイに逃げてきた少数民族モン族の難民キャンプで、子どもの図書館をつくる活動に加わった。文字を持たず本もないモンの人たちだが、父親が子どもに語る民話を聞いて驚いた。生き生きと語られる言葉が宙に舞い出すかのように思われた。子どもたちに小さなテープレコーダーをわたし、おじいさんやおばあさんの語る民話を録音してもらい、民話のテープライブラリーをつくりあげた。絵本を見たこともなかった子どもたちが刺繍で絵本を作るようになった。

モンの人たちの故郷に行ってみたいと思いつけていた著者は、日本人青年太郎さんとの出会いがきっかけで、電気もガスも水道もない山の村ゲオバトウ村に子ども図書館をつくることになった。村の長老サイガウ爺さんの家に建築家の青年とともに住み込ませてもらい、村の人たちと一緒に材木や石を運び、日本の伝統工法で木材を組んで棟上げをした。竹を編んだ木舞に塗る壁土をつくるため、子どもたちが糞を混ぜた土を水牛に踏ませてくれた。そのかたわらで著者はゴザを敷いたゴザ文庫担当として絵本を見せお話を語り、村人とともに本を登録し、ついに「たろうの図書館」開館にこぎつけた。

開館から七年、厳しい生活環境の中で図書館運営に携わった女性たちは自分たちの生き方を模索し、一歩ずつ歩を前に進めようとしている。水くみや畑仕事の合間に泥だらけの手足で絵本やお話に聞き入った子どもたちは、心の世界を広げ、新しい世界の扉を開けようとしている。美しい写真とともに紹介される子どもたちの姿から、本とお話の大きな力が伝わる。(片木)

日曜日の絵本の時間

6月21日
7月19日
おはなしの部屋
11:00~
2~3歳の子どもと保護者

カレンダーの×印は休館日です。
開館は10時~18時まで。
金曜日は20時まで開館しています。

6月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
	×	×	3	4	5	6
7	8	×	10	11	12	13
14	×	×	17	18	19	20
21	22	×	24	25	26	27
28	29	×				

7月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	×	×	31	9	10	11
12	13	×	15	16	17	18
19	×	×	22	23	24	25
26	27	×	29	30	×	

地下水

ずっと前から欲しいと思っていた花「クレマチス」をいただいた。元気に育てたいと、日当たりや水やりについてスマホで検索。巻きつけてあった支柱からそつとほどき、一回り大きな鉢に植えかえた。

調べたいことがあると、すぐにスマホ。門柱の上を這いまわり、つぶすと赤い汁が出る虫の正体は何？運動会のダンスの練習が宿題にでて、「音楽がないとできない」と言われても大丈夫。便利になったものだ。

でも、やはり図書館の本棚へ。園芸の棚に並ぶクレマチスの本をめくると、花に覆われた壁面や美しい庭の写真、多種多様な品種や詳しい育て方もわかる。隣に並ぶクリスマスローズの本や園芸の上段の棚にある野菜作りの本にも目が移る。

スマホを使えば、その場で回答がわかるが、それはピンポイントの回答。本を開けば、自分の思っていないかた方面に興味が出るが、ついでにいろいろおもしろい。

知りたいことが家にいながらわかり、本以外の楽しいことがあふれている時代になって、図書館へ行ったこともないという人が増えているのかもしれない。たまには、書架の間をゆつくりと散策し、自分の興味をこえた新しい出会いを楽しんでほしいと思う。

(池田)

